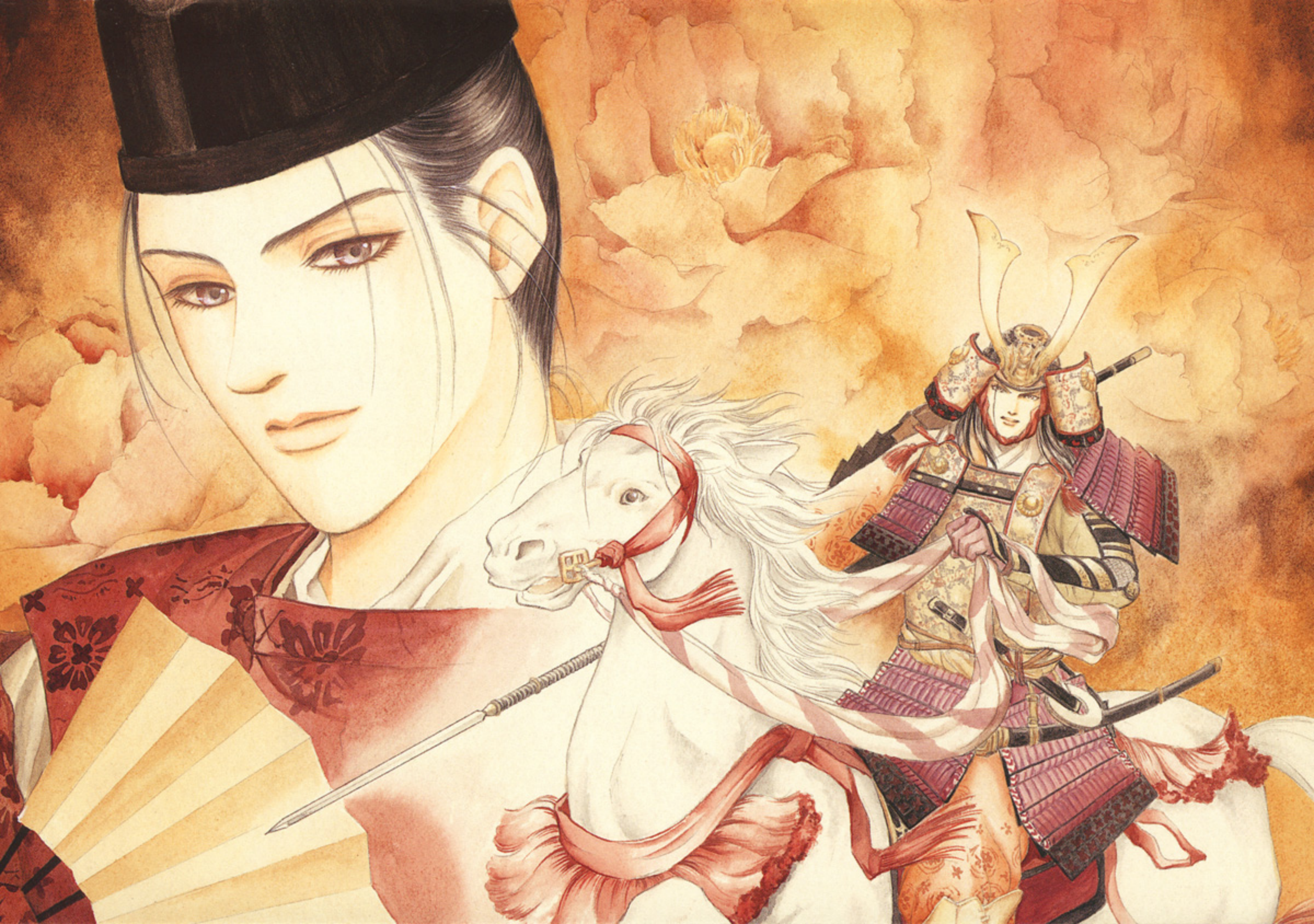
BBC

BE×BOY COMICS

天離(あまさか)る

AMASAKARU AMASAKARU AMASAKARU AMASAKARU AMASAKARU AMASAKARU AMA

／安曇もか



天離る
安曇もか

CONTENTS

天離る
3

頼朝 前編
89

頼朝 後編
133

あとがき
173

"AMASAKARU"
Presented by MOKA AZUMI

月の明るい夜だというのに
腕に覚えのありそうなカモは
ついぞ捕まらず

生意気な童を
からかってやろうかと
思ったのだ
それが――

はーっ
はーっ

どうした
もう仕舞いか？

ならば
帰るぞ

ぶん

待てい！
我は
武蔵坊弁慶！

貴様は

この俺が
もてあそばれる
とは…!!

遮那王
鞍馬の天狗だ
あまさか
天狗

遮那王…!?
おいっ ここは 橋の上だぞ!!
がっ
武蔵坊! 楽しかったぞ!!
ぶん ぶんっ
……はあ!?

楽しかった…だと!?

ムヤ〜〜…

…のガキ!!

鞍馬山には天狗がいる

そんな噂が広まる程に昼なお暗い山奥に通わずにはいられなくなった

——遮那王、鞍馬寺は東光坊蓮忍のもとで修業する稚児

いずれは出家し僧となる…

剃髪させるなんて惜しい気もするな

ちっこいながらもあの美貌…

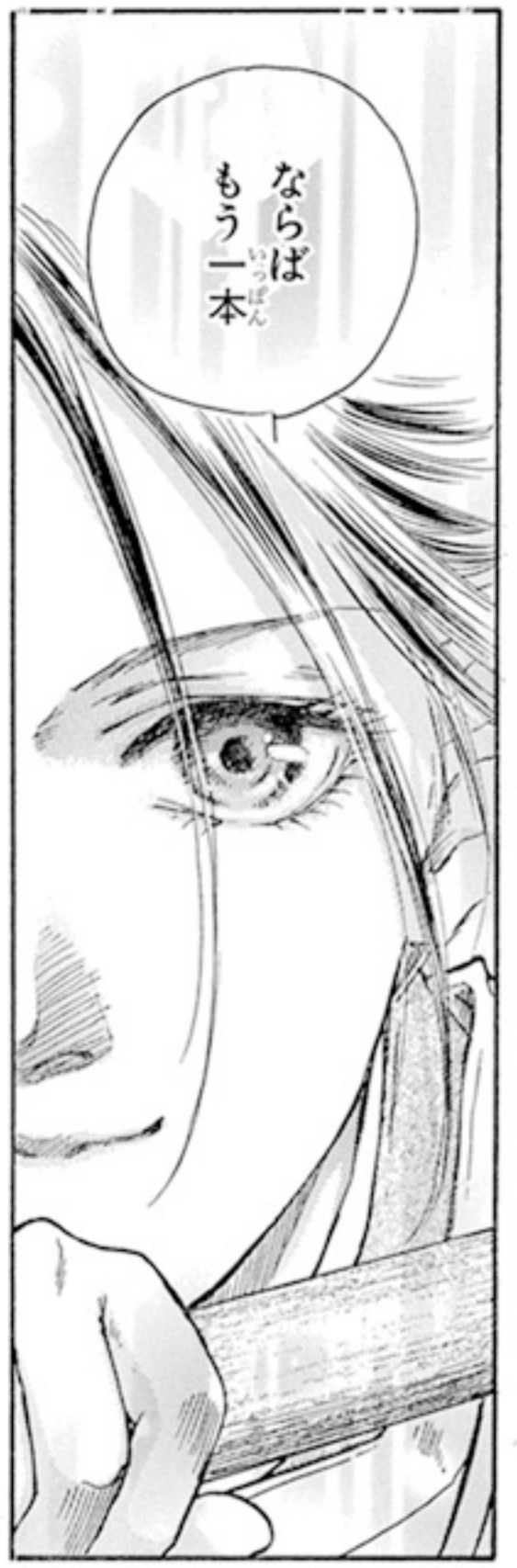
いやそーじゃなくて。

あれの母親はさぞや美女…

親の顔が見たい

ドンっ

つまらんぞ武蔵坊へばったか？
年寄りはこれだからな
がらん
誰が年寄りだ
こう見えてもぴちぴちの…


ならばもう一本

じゃくん
暴れん坊が…
——良い瞳をする

寺住みの稚児は様々で食い詰めの子もいれば何らかの理由を持つ貴族の子弟もいる
おっ
したっ
遮那王は誰の子だ
知らぬ
この遮那王初めは公家の子かと思ったが——
（裕福な後楯のある者とそうでない者とはおのずと違いが出るからだ）

知らぬ？

誰も教えてはくれぬ
今はまだ
知らぬ方が良いと…
知れば
命がないそうだ

…殺されると
いうことか？

物騒だな

華美ではないが
質の良い水干
薄墨の笛

それらは
貴族の持ち物だ
一介の孤児では
あり得ない
何より
この風情

化物の子
かもしれん

化物の子でも
天狗の山で修行させれば
いずれ僧侶になれるか？

誰かが俺を鞍馬に
閉じ込めている！
ここで息をひそめて
隠れているなら
生かしておいて
やろうというのだ

俺は
捨てられたのか？
誰も
教えてはくれぬ

痛々しい…
行き場のない憤りが
小さなその身を
焦がしている

俺はお前を見つけた

随分探したぞ

——口をついたそれは我ながら不思議な言葉だと思った

まるで数多ある星の中から唯ひとつを見つけたかのような……

やっと見つけたかのような…

すん

こんな顔で笑うのかこんな小さな子が…存在を否定されることほど哀しいことはないい

好きで僧兵をやっている今ではこの身体は恵まれたと思うがな

そうだ 俺も生まれた時は化物と言われたぞ！…でかすぎて

でかすぎ

お前が髪をおろすのは惜しいとも思うが…

出家などさせるものか！

遮那王様から離れよ

武蔵坊弁慶

そして二度と近づくな！

なんだと!?

うわ、カラス天狗!? ふざけんなっ

武蔵坊!! 敵ではないんだ 常陸坊達は…

常陸坊…？

あっ

その声…
常陸坊海尊か
なんだそのかぶりもんは。

流石に見知った者は騙せんな
いかにも常陸坊海尊と鎌田正近
おいっ
いいんだ この武勇に勝れた武蔵坊が加わるのは望ましいと思っていた

…都に聞こえた武蔵坊の名くらいは知っておるが…
常陸坊勝手に決めんな

遮那王様も御自分の御血筋を自覚されても宜しい頃

遮那王様の御父君は左馬頭 源 義朝様

14年前の戦で平氏に討たれた源氏の頭領…!!

では遮那王は…

すぅ

遮那王様は

源氏の御曹司にあらせられる

すべてのことに合点がいった

その血脈を知れば殺される誰に…？

平氏に!!

山深い鞍馬の寺でひっそりと生きなければならなかったのは

その血脈を頼る源氏の残党に担ぎ出されるのを平氏が恐れてのこと

御父君の仇は平清盛…!!

母御前 常盤様は平氏に捕われた実母殿をお救いする為に自ら清盛のもとへ下り

母…上…？

その身と引きかえに遮那王様と二人の兄上様方の命乞いをなされた

源氏の血など絶やしてしまえ!!

子供達だけはどうか…!!

なんと あの常盤御前の子か…!

都一と謳われた美貌ゆえに源 義朝に愛され平清盛に捕えられ…夫を殺した男のものになった

子を護る為に…!!

そうしてお三人は後に出家することを条件に処刑を免れそれぞれ別の寺へ預けられたのです

幼い遮那王がすべてを理解するには時が要るだろう

遮那王様は決して捨てられたのではございません

頭の殿はとりわけ小さな和子様方を案じておられました

常盤様は乳飲み児であった遮那王様を懐に抱き和子様方の手を引きながら雪の中を逃げおおせられたと聞きます

遮那王様のお二人の兄上様方はすでに出家なされましたが

伊豆の頼朝様が源氏の総大将として旗上げの際には遮那王様も馳せ参じ…

正近！事を急ぐな

唯今は遮那王様には源氏の血の誇りを持って健やかに成長なされるのを望むばかり

遮那王様のお命は父上様 母上様に愛され護られて

ここに在るのですよ

透明で無垢な雫を
見つめながら

俺は生涯この命の傍らで
生きていくのだろうと
感じていた

不思議な確信と共に

二年の後
再三かかる平氏からの
「遮那王を出家させよ！」
との声の中
遮那王は鞍馬を脱出する

奥州に向かうその途中に元服し
名を源九郎義経と改めた

母上様に
お見せしとう
ございましたね

…平氏に追われる身だ
御迷惑になろう
今は静かに暮らして
おられると聞く

一条大蔵卿の
妻として

とにかく！
何しろ我等が手塩にかけて兵法も剣も…
いずれウチの御曹司が御父君の仇 にっくき平清盛めをぶっ殺して！
源氏の代が来るってことだな！
満悦っ
三郎！ お前は山賊のくせに何をちゃっかり
おうよ！ この伊勢三郎九郎御曹司にホレてすべてを投げうって御家来衆に加わったってわけよ！
…加えたんですか？
山賊
旗上げの時は役に立つぜー!! 俺がひと声かければだな～～～
山賊が集まるんかいっ!!
あはは…
――奥州平泉 黄金と名馬を産出する裕福な北方の地
平氏の勢力も遠く実質的には独立国の様を呈していた
その国を統べる王とも言える藤原秀衡の庇護を受けその地にて数年を過ごす
身事な騎馬振り… もう御指南することはありませんな

この奥州で生まれ育ったかのようにすでに我が息子達をも凌いでおられる

手離すのが惜しい…だがあの御気性ではいつまでも繋ぎ留めてはおれまい

お前達もな

お館様!!では…

佐藤嗣信・忠信兄弟

武蔵坊…

九郎殿は不思議な光を持っておられる

九郎どのーっ お待しやっ

皆が九郎殿に魅かれ愛し心酔する

優しく温かい光に

改めます以前は遮那王様という名でございました

遮那王とは…これはまさしく日輪の子か…

あの光に影さすことのないように…

治承四年
源頼朝は以仁王の令旨を受け
伊豆の地にて旗上げした
その傘下に加わるべく
九郎義経の一行も
黄瀬川に陣をはる
兄 頼朝のもとへ――

九郎か…！
よう参った

そなたを最後に
見た時はまだ
生まれたばかりの
乳飲み児であった

身体が震える…
胸がこんなに熱い…

兄上…!!
お会いしとう
ございました…!!